

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立小中一貫校村山学園

|      |  |
|------|--|
| 経営理念 | ①施設安全一体型小中一貫校の特色を生かし、多くの人の関わりの中で様々なコミュニケーションの場を通じて人間力を育成する学校を目指す。<br>(1) 義務教育9年間を見通して、人間力の育成を図る学校<br>(2) 施設一体型の特色を生かし、小中一貫教育の推進を図る学校<br>(3) 地域・家庭との共働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校 |
|------|--|

|                |     |          |
|----------------|-----|----------|
| 学校運営協議会（学校評価分） | 第1回 | 7月14日（金） |
|                | 第2回 | 10月3日（火） |
|                | 第3回 | 2月16日（金） |

| 経営目標<br>(中期・短期を明記) | 目標達成のための方策  | 評価指標  | 自己評価      |            |      |     | 分析コメント(学校関係者評価委員会の意見・児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。) | 改善策(来年度の目標設定、具体的な取組目標)  | 学校関係者評価  |   |     |
|--------------------|---|---|-----------|------------|------|-----|--|---|--|---|-----|
|                    |   |   | 目標値       |            | 最終評価 |     |  |   | 意見   | 評価点<br>(4点満点)   |     |
|                    |   |   | 7月<br>達成値 | 12月<br>達成値 | 達成度  | 評価  |  |   |  |   |     |
| 確かな学力の向上           | ①東京ベーシック・ドリル診断シートの問題を学期毎に実施し、間違えた問題は見直しして提出させる。<br>②2年生以上の算数は、2学級4展開の習熟度別で実施し、少人数指導を行うことによって、授業時間内での定着を図る。            | ・東京ベーシックドリル算数、数学のB評価以上の児童・生徒の割合                                 | 75        | 56         | 61   | 81  | A  | 評価はAであるが、目標値に対する達成度は約6割であり、習熟を図るための活動を意図的、計画的に位置付けて、学習内容が定着しているとは言えない状況である。   | 読み、書き、計算の指導を徹底し、授業時間内において、習熟を図るための活動を意図的、計画的に位置付けて、朝の読書時間の読書内容を見直し、ただ読書をするだけの時間から、読む本を教員が選書して身に付けさせたい力を明確にした読書の時間とする。                        | ・学力調査で全国平均値から10ポイント程度下回っている観点や領域は、改善策を別のアプローチから考える必要がある。<br>・家庭学習の仕方について、保護者会や面談などで更に説明をすと良い。<br>・保護者より連携して、学力向上に向けて取り組むことが大切である。                           | 3   |
|                    | ・授業のユニバーサルデザイン化を図り、分かりやすく授業実践をする努力を徹底する。  | ・授業が分かりやすいと回答した児童・生徒の割合<br>・分かりやすい授業を行っていると思うと回答した保護者の割合        | 85        | 90         | 88   | 103 | A  | 教室黒板横のカーテンの設置や椅子へのテニスボール取り付けにより、教室環境を改善してきた成果が達成値に現れていると考える。  | 指示や発問の仕方、板書の工夫などについて教員研修等を通じてスキルアップを図り、分かりやすい授業づくりに取り組む。また、机や椅子へのテニスボール取り付けを進め、児童・生徒が集中して学習に取り組める環境づくりを行う。                                   | ・教員の分かりやすい授業をするための意欲や取組が評価に表れている。<br>・一斉指示では理解することが難しい子供が多い印象がある。SCや支援員をさらに活用できる体制になると良い。   | 3.3 |
|                    | ①タブレットPCや既存機器を使うなど、ICT機器を有効活用して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。<br>②ICT機器を思考ツールとして活用させ、児童・生徒の学習意欲の向上を図る。                            | ・タブレットPCの活用により学力の向上を実感したと回答した児童・生徒の割合<br>・タブレットPCを積極的に活用した教員の割合 | 80        | 68         | 73   | 91  | A  | 教員のタブレットPCを授業で使用する頻度は上がっている。しかし、学力の向上に結び付いていない現状にある。  | タブレットPCを効果的に使う授業づくりのための校内研究を進める。タブレットPCによるドリル学習を更に充実させるとともに、家庭学習でも日常的に使うよう保護者への啓発を図る。  | ・タブレットPCを活用する一方で、ノートを取れない子供が多くなるのではないかと懸念がある。<br>・ICTの素晴らしさは理解しているが、人対人の温かみのある教育も必要であると感じる。   | 3   |
| 豊かな心の育成            | ①小学部、中学部が連携した生活指導を行う。<br>②生徒会本部を中心とした啓発活動を行う。   | ・学校に安心して登校できる児童・生徒の割合<br>・安心して登校させられると回答した保護者の割合                | 90        | 91         | 86   | 95  | A  | 未然防止、早期発見、早期対応が教員間で連携してできている。ふれあいアンケートの実施及び丁寧な聞き取り、指導により、軽微ないじめも見逃さない体制が構築できている。  | 年度当初に全校連絡会で、いじめ防止基本方針を確認し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応及び関係機関等との連携についての理解を図る。また、年間3回のふれあいアンケートを継続して実施する。  | ・学校生活を送るうえで、子供の安全・安心は最優先しなければいけない中で95%の達成度は良い。先生方の努力を感じる。<br>・学校が努力している様子が見える。<br>・SNSのトラブルは家庭が主体となって解決すべき問題である。保護者に自覚を促すようにすると良い。<br>・特別支援学級や特別支援学級の取組は良い。 | 3.7 |
|                    | ①特別支援校内委員会を計画的、定期的に実施して、組織的な対応を行うことで、個々の児童・生徒へのきめ細やかな対応の充実を図る。<br>②SCやSSW、巡回相談や教育相談室などの関係機関との連携を図る。                   | ・一人一人に応じたきめ細やかな対応があると感じる児童・生徒、保護者の割合                            | 90        | 80         | 83   | 92  | A  | 校内でのSCの活用や教育相談との連携は十分に図れている。SCや教育相談等を利用していない保護者について、校内体制についての周知が十分ではないと考える。   | 特別支援校内委員会の定期的な実施により、児童・生徒の情報共有を密に行い、対応や支援方法について共通理解を図る。SCの教室巡回を充実させ、特別な支援を必要とする児童・生徒への支援について学級担任等と連携を図る。                                     | ・特別支援学級や特別支援学級の取組は良い。<br>・特別な支援を必要とする子供が多く、特別支援の必要性が大きいと感じる。  | 3.6 |
|                    | ①一貫校9年間をとおして、発達段階に応じたキャリア教育プログラムを行う。<br>②体験学習の計画段階から児童・生徒が主体で行い、多様な人間関係の中で自分を律することを学ぶ。                                | ・体験学習等が楽しいと答えた児童・生徒の割合<br>・体験学習を通して子供の成長を感じると回答した保護者の割合         | 95        | 96         | 85   | 89  | A  | 体験活動を計画的に実施するとともに、実行委員として児童・生徒が主体となって取り組むことで、肯定的回答が高い結果であると考えられる。   | 体験活動の意義を児童・生徒に理解させることで、より主体的に取り組むとさせる。また、各活動の取組内容の見直しを図り、児童・生徒の発達課題に応じたプログラムとなるようにする。  | ・普段、家庭で体験学習を十分にできていないのでありがたい。<br>・体験学習を最大限有意義にするため、日頃の人間関係を大切にしてほしい。  | 3.7 |
| 健やかな体の育成           | ①休み時間等の外遊びを奨励し、遊びの中で身体を動かす機会をつくる。<br>②なわとび週間や持久走週間、大縄大会などの取組を行い、運動習慣の確立を図る。   | ・進んで運動しようとする児童・生徒の割合  | 85        | 75         | 75   | 88  | A  | 体育や大縄大会などの活動には、意欲的に取り組む様子が見られる。しかし、放課後や休日は運動する、運動しないの二極化が進む傾向にある。   | 体育の授業内での体づくり運動や体力テスト種目に関する内容を学習として実施し、体の基本的な動き方などを習得させる。なわとび週間や持久走週間、大縄大会などの取組を契機として、今後も継続的に運動に取り組む、運動習慣が定着するよう指導する。                         | ・もっと運動させても良いと思う。<br>・インターネットやゲームで育ってきた子供たちに運動の楽しさ、魅力を伝えて、心まで鍛えられるのは嬉しい。<br>・先生方が、休み時間に子供たちと一緒に遊ぶ姿が見られて良い。   | 3.2 |
|                    | ・火災、地震、不審者侵入を想定した避難訓練、引き取り、集団下校の訓練、災害、生活、交通安全に対する安全指導、セーフティ教室、自転車教室、職員救急救命研修により非常時に強い学校づくりを行う。                        | ・非常災害時にどのように避難したら良いか分かるという児童・生徒の割合                              | 90        | 96         | 96   | 106 | A  | 避難訓練に真剣に取り組む姿が見られる。学級担任等による事前・事後指導が効果的にされていることから、適切な避難行動の理解につながっていると考える。  | 効果的に避難訓練が実施できている。現在の取組を継続し、児童・生徒だけでなく教員もさらにスムーズに適切な避難行動を取ることができるようになる。   | ・児童・生徒にAEDがどこにあるのかを周知すると良い。<br>・子供たちの安全・安心が整えられている様子が見える。<br>・地域の方に避難訓練の様子を見ていただく機会があると良い。  | 3.7 |
| ※学校裁量              | ①連絡アプリを活用し、電話による欠席等連絡を減少させるとともに、配布文書のデジタル化により印刷に係る業務時間を削減する。<br>②教育計画を活用し、起案を最小限にするるとともに、発出文書、配布文書を減らす。               | ・働き方改革が推進されていると感じる教員の割合   | 80        | 35         | 85   | 106 | A  | 1学期末から達成値が大きく増加した。連絡アプリを効果的に活用することで、欠席連絡などの保護者に連絡することが大きく減少した。  | 日常の様々な業務に無駄がないか、簡略化することができている余剰がないかを常に意識し、業務の効率化に努める。学期末の成績処理等の時期に勤務時間外労働が増えるため、見直しをもって行うよう、機を見て管理職が言葉掛けを行う。                                 | ・働き方改革が難しい職業であると思うが、改革を進めてほしい。<br>・デジタル化を進め、本来教員が力を入れるべきところに時間を掛けられると良い。<br>・連絡アプリでの活用が浸透してきて良い。  | 3.7 |
|                    | ①学校の課題解決に向けた研究のため、研究授業には講師を招聘し、一貫校として系統だった指導を行う。<br>②授業において地域人材を活用し、学習支援に当たることによって、基礎的・基本的な学力の定着を図る。                  | ・学校の課題解決に向けて、有効に講師や地域人材の活用が図れたと感じる教員の割合                         | 85        | 79         | 85   | 100 | A  | 校内研究での研究授業だけではなく、教員研修にも講師を招聘し研修が効果的になるようにした。また、講師による授業観察により、指導力の向上を図った。大学生や地域の方を学習支援員として活用し、特別支援が必要な児童・生徒への支援に当たること課題解決に向けた取組が充実したと考える。 | 学校の課題に応じた講師を招聘し、教員の指導力の向上のための研修等を実施する。学習支援員の募集をTEPROを利用して行い、人材の確保に努める。   | ・開かれた学校づくりとして、地域の人材活用を増やしていくと良い。<br>・教師自身も自分の住んでいる地域で、地域人材として活躍されると良い。  | 3.7 |
|                    | ①学校だより、学年だより、学級だより及びホームページやTwitterを活用し、計画的に学校の情報を発信する。<br>②保護者会や個人面談等では、学校や子供たちの様子などについて分かりやすくまとめた資料を活用し、家庭の理解と協力を得る。 | ・学校の情報発信に満足していると回答した保護者の割合                                      | 90        | 94         | 94   | 104 | A  | 学校生活の日常の様子をXで発信することに努め、保護者から肯定的な意見をいただいている。また、個人面談を活用して、学校生活の様子を丁寧に説明していることが高い評価につながったと考える。   | 学校ホームページの定期的な更新に努め、地域の方々に最新の情報を提供する。Xをさらに効果的に活用するため、学園だよりやその他のお便りなどで周知を図る。また、保護者会や個人面談資料作成において、学校が伝えるべきことだけでなく、保護者が何を知らなければならないのかという観点で作成する。 | ・Xの活用は、継続してほしい。<br>・今後ますますSNSを利用して情報発信する機会が増えることを期待している。<br>・村山学園の特色になっている取組については、もっと発信していくと良い。   | 4   |
| 平均値                |   |   |           |            |      |     |  |   | 3.5  |   |     |

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し